

検証 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

新型コロナウイルス感染拡大時の
医療介護連携に関するアンケート調査

(調査;2020年5月~6月)



自由記載内容(訪問介護)



1)新型コロナウイルス感染症の拡大により、困ったこと、不安に思ったこと

*訪問介護事業所

マスク・体温計
アルコール消毒液
は品切れ中です

①物資不足に関して

- ・物資不足が不安
- ・マスクや消毒液等の不足
- ・マスクやアルコール消毒等感染予防に必要な衛生用品の不足状態が続いています。
- ・マスク、消毒液、手袋の購入ができなかった
- ・衛生用品の納入ストップ（マスク、アルコール消毒液）
- ・サービス提供に伴い必要となる衛生用品の確保が足りていない（使い捨てエプロン、マスク、消毒用アルコール液など）



②感染リスクに関して

- ・訪問介護は、訪問先でご利用様が体調不良であったら、助けざるを得ません。一見コロナ感染症ではないと思っても、後から判明する場合もあると思います。常に感染のリスクはあると考えられます。
- ・ヘルパーの中には、コロナ感染されたところへは行きたくない、怖いとの声があります。
- ・自分や家族の感染と、施設内クラスターへの不安
- ・自分を介して利用者への感染リスク（逆の場合もあり）
- ・ヘルパーが感染源になり、利用者への感染拡大になる不安がある。
- ・予防をしなくてはいけないのにマスクや消毒液は手に入らない状況で、身近な利用者が発症してしまったら、どの様にしてその方と自分自身や職員の身を守れば良いのか、とても不安でした。



- ・もし自分たちが感染した時のことを考えると色々な面で不安を感じました。(自分がうつしてしまうのではないかと、自分がかかってしまったら、家族が・・・など)
- ・職員が新型コロナウイルスに感染しないこと。利用者に感染させない不安
- ・利用者から、ヘルパーが訪問するとヘルパーにうつされると言われた。利用者(一人暮らし)がもし感染したら、対応できるのか不安。
- ・実際に感染者の支援に入った場合、他の利用者への支援ができるのかどうか。

③ 事業所運営に関して

- ・ヘルパー1名でも陽性になれば事業所閉鎖になり得るので、80名の利用者の依頼を他の事業所に受けてもらえるか不安だった。
- ・職員が感染し事業所全体が稼働できなくなった場合の利用者への対応に不安がある。
- ・デイサービスが休みになると、訪問対応の依頼があり、シフト調整が大変だった。また、利用者も咳が出ている職員を嫌がるため、シフト変更にと時間をとられた
- ・利用者及び職員に発熱者が出た場合、極度の人手不足に陥る



④ その他

- ・県外移動の制限により、県外居住者家族が面会できない(独居老人で子供が県外在住のケース)
- ・訪問時利用者さんが体調不良だった時、検査が必要なのは・・・と不安に思う。
- ・感染予防について、もっとわかりやすくまた正確な情報をもっとしっかり発信してもらいたい。
- ・ご利用者に発熱等があっても原因や検査結果がわからないまま訪問しなければならない(時間がかかると、コロナの検査はしない)
- ・誹謗中傷
- ・日々状況が変わっていくので、対応していくのが大変だった

2)新型コロナウイルス感染症に関して、サービス事業所の立場から行政に要望したいこと

*訪問介護事業所

①制度の見直し

- ・訪問介護は、非常勤の登録ヘルパーで成り立っている。常勤を増やせる仕組み、制度、介護報酬を見直して頂かないと、今回のコロナのような場合、対応が手薄にしかできない
- ・感染リスクがある事実に対し、危険手当を支給する制度。
- ・感染リスクに直面しながらサービス提供を行うことから、訪問介護員の危険手当の支給、又加算等による報酬上の評価を求めます。
- ・医療系だけではなく、介護系にも危険手当があっても良いと思うし、防御するためのマスクやエプロンの支給があっても良いと思う。



②事業所間の連携のしくみ

- ・万が一当事業所の利用者又はスタッフにコロナ感染症及び濃厚接触者が出た場合、当事業所は閉鎖になります。その際、他の利用者に迷惑がかからないよう、早く他の事業所と連携できる仕組みがあれば良いと思います。

③一時待機場所の確保

- ・ご利用者家族が感染され、濃厚接触者となられた場合の訪問について、訪問することによってヘルパーが自宅待機になってしまうと、他の利用者の所への訪問が出来なくなる。特にスタッフの人数も限られているため、対象者のPCR検査は勿論のこと、利用者が病院等一時待機できる場所を確保することなどできないものだろうか？

④必要物品の支援

- ・マスク、消毒液等必要物品が必要最小限しかなく、マスクの1日での使い捨てをやめ、2~3日

使っている状態です。実際に濃厚接触者やコロナ感染の疑いのある方の支援に入った際には、使い捨てないといけないので、十分物品がある状態でないとそこでまた感染の拡大につながってしまうと思います。

- ・介護は利用者と濃厚接触するケースが多く、マスク、フェイスシールド、防護服等の安定供給が望まれる
- ・感染予防に必要な衛生用品を常に確保し、不足時には即対応できる体制を整えてほしい
- ・マスク、消毒液、手袋など現在は支給していただきましたが、もう少し早く対応していただきかった

- ・衛生用品の確保



⑤ 事業所経営支援

- ・施設の方針や利用者側からの利用自粛による収入減に対する補償
- ・利用者からや施設内での感染による休業補償や、法的な権利擁護制度の確立
- ・当事業所は利用者3割減となり、経営面で不安を感じた

⑥ 判断基準

- ・熱が出た利用者がいても受診して診断が出るまでの間、ヘルパーを訪問させないといけない。この間の判断が事業所任せになっている。はっきりとした判断基準がほしい。また、福祉系にも危険手当をつけてほしい。感染症防護キットを配布してほしい。

⑦ その他

- ・ワクチンの早期開発と介護職員への優先接種の義務化
- ・予防等情報を整理し、正しいものを早く事業所に知らせてほしい
- ・利用者が感染したら、医療者から色々詳しくアドバイスが欲しい。



3)医療機関への要望や連携する上で困っていること

*訪問介護事業所

- ・当事業所は、何かあるとまずケアマネジャーに連絡・相談しています。ケアマネジャーも含め、医療機関とスピーディーに連携できたら、利用者様にとって何よりの安心につながると思います。
- ・かかりつけ医との情報共有
- ・医療機関同士が連携強化することで、かかりつけ医でない近医に受診できる体制の整備
- ・24時間体制での看護師等医療従事者の相談窓口の設置
- ・医療機関が積極的に介護事業所と情報交換するように希望する
- ・訪問介護員から直接医療機関へ連携することはなく、全てケアマネを通してのことになるので、エイルなどで情報伝達がスムーズになればと思います。
- ・医師や看護師から見下され、相談しづらい環境がいまだにある。

